

令和5・6年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上(ICT活用)」  
令和4・5・6年度 始良市「学力向上」研究協力校  
始良市立西始良小学校研究公開

(令和6年11月27日公開)

## 1 研究主題

ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり  
～算数科の学習を通して～

## 2 全体会

全体会では、研修係から研究の経緯等について発表がありました。その中で、「課題に対して、自分の考えをまとめることや、それを上手に伝えたり、相手の考えを深く理解したりすることが苦手である」という課題を踏まえて、目指す子供像を①自力で課題解決に取り組むことができる子供、②課題に対して自分の考えをもち、伝え合うことができる子供、として研究に取り組んできました。



【研修係による研究発表】

西始良小学校の具体的な取組は、概ね次のとおりです。

- 取組の基盤となる考え方等の整理、整備
  - ・ ICTの特性の分類
  - ・ ICT活用のための環境の整備
  - ・ 目指す子供の姿の明確化
  - ・ ICT活用の多様化
- ICTを効果的に活用し、お互いの意見を交流し学び合う場の工夫
  - ・ ヒントボックスの活用
  - ・ 伝え合い・深める活動
  - ・ 考えを伝える手立ての選択
  - ・ 発表の仕方の工夫
- ICTを活用した学習の振返りの時間の充実
  - ・ はかせのちょきんばこ（振返りの蓄積，同一児童の変容）

これまでの研究の成果としては、①タブレット端末のルールを学校だけでなく、家庭にも伝えることで、家庭でも同じルールでタブレット端末の使用ができるようになってきたこと、②ICT機器の活用により、学び合いの時間が増え、自分の考えを、自信をもって話したり、友達の話真剣に聞いたりする姿が多く見られるようになったこと、③「は（はやく）・か（かんたんに）・せ（せいかくに）」の視点で考える機会が増えたことで、学び合いの場面でもその視点で自分の考えや友達のを捉えられるようになってきたこと、などが紹介されました。

今後の研究の方向性として、「蓄積された振り返りカードのより効果的な活用方法」等について更に研究を深めていきたい、と展望が語られました。

## 3 公開授業

### (1) 第1学年 算数科 単元名 「ひきざん」

本単元は、「絵や図、ブロックを用いて問題場面を表し、それをもとに加法や減法を判断して式を作り、自分の立てた式について、その根拠を自分の言葉で相手に分かるように説明できる表現力の定着を図るようにする。」という願いをもって設計されました。

本時では、「文章問題から増加場面か求差場面かを判断して式を作る際に、図を

使うことでその演算に決定した理由を説明できる」ことを目指して授業を行いました。また、指導にあたっては、与えられた文章問題から児童が絵やブロック、図のうち、何を以て考えたかについて、色分けされたカードを使って写真を撮った後、ロイロノートで送るという手立てがとられました。更に、児童の発達の段階が考慮された振り返りカードを以てタブレット端末による振り返りが行われました。



【第1学年の授業の様子】

## (2) 第5学年 算数科 単元名「図形の面積」

本単元は、「平行四辺形や三角形の面積の求め方を学習し、それらの求め方を基に、その後の台形やひし形の面積の求め方を考え、求積公式の意味を理解し活用できるようになってほしい」という願いをもって設定されました。

公開授業は、「台形の面積の公式は何だろう。」という学習問題で行われました。児童は、図や言葉を使って自分の考えをノート、またはロイロノートを使って考え、その後、お互いの考えを見せ合いながら、相違点を確認したり、質問し合ったりしていました。また、振り返りの場面では、タブレット端末を活用して色分けされたカードに「分かったことやできるようになったこと」、「がんばりたいこと」などを入力していました。



【第5学年の授業の様子】

## 西始良小学校の特色ある研究 ～ICT機器の特性の分類～

西始良小では、これまでの研究で取り組んだ豊富な実践事例を基に、ICT機器を効果的に活用するための「活用の視点」と「考えられる活動や、活動によって期待される効果」についてまとめ、授業をデザインする際に活用しています。

活用の視点	考えられる活動や、活動によって期待される効果
可視化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の考えや意見等を瞬時に見やすくすることができる。</li> <li>自他の動きや様子が見やすくなる。</li> </ul>
焦点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料等を拡大することで、注目させたい部分が見やすくなる。</li> <li>資料等へ書き込むことで、注目させたい部分が明らかになる。</li> <li>考えを図式化することで、考えを明らかにすることができる。</li> </ul>
個別化	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の理解度に合わせて電子ドリルの学習内容を選択したり、進度を調整したりすることで、学習内容への理解が深まりやすくなる。</li> </ul>
共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と考えやデータを共有することで、一緒に作成、編集、吟味をしやすい。</li> </ul>
構造化	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを比較したり、関連付けたりしやすくなり、物事の関係性がわかりやすくなる。</li> </ul>
シームレス化	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所や時間等の制約が取り払われ、どこでも学べるようになったり、見学等の疑似体験がしやすくなったりすることで、学習者に合わせた学びを行うことができる。</li> </ul>
記録化	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学習履歴を検索したり、データを取り出し比較したりすることで、自己の考えの変容やその要因を振り返りやすくなる。</li> <li>家庭学習で、自宅で取り組んだ学習内容を記録し、教師と共有することで進捗状況や理解度を確認することができる。</li> </ul>